



## R コマンド

---

この章では、R で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

# rlr preferred-cond fcid

Registered Link Incident Report (RLIR) を優先的に受信するホストを指定するには、**rlr preferred-cond fcid** コマンドを使用します。優先的なホストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rlr preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

```
no rlr preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

## 構文の説明

<b>fcid</b> <i>fc-id</i>	FC ID を指定します。形式は、 <b>0xhhhhhh</b> です。
<b>vsan</b> <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは、登録機能が「always receive」に設定されているホストがない場合、スイッチは登録機能が「conditionally receive」に設定されている仮想 SAN (VSAN) 内のホストの 1 つに RLIR フレームを送信します。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチが優先ホストに RLIR フレームを送信するのは、次の条件が満たされる場合だけです。

- RLIR に関して、登録機能が「always receive」に設定されているホストが VSAN 内にはない。VSAN 内の 1 つ以上のホストが「always receive」として登録されている場合、RLIR はそれらのホストにだけ送信され、設定されている優先ホストには送信されません。
- 優先ホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている。登録されているすべてのホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている場合、優先ホストが RLIR フレームを受信します。

指定できる RLIR 優先ホストは VSAN ごとに 1 つだけです。

## 例

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FCID 0x654321 を指定する例を示します。

```
switch(config)# rlr preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FCID 0x654321 を削除する例を示します。

```
switch(config)# no rlr preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show rlir</b>	RLIR、Link Incident Record Registration (LIRR)、および Distribute Registered Link Incident Record (DRLIR) フレームの情報を表示します。
<b>clear rlir</b>	RLIR をクリアします。
<b>debug rlir</b>	RLIR デバッグをイネーブルにします。

# rscn

Registered State Change Notification (RSCN) を設定するには、**rscn** コマンドを使用します。RSCN はファブリック内の変更について N ポートに通知するファイバチャネルサービスです。

**rscn {multi-pid | suppress domain-swrsn} vsan vsan-id**

## 構文の説明

<b>multi-pid</b>	RSCN を Multiple Port ID (multi-PID; 複数ポート ID) フォーマットで送信します。
<b>suppress domain-swrsn</b>	ドメインフォーマット SW-RCSN の転送を抑制します。
<b>vsan vsan-id</b>	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、RSCN を multi-PID フォーマットで設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn multi-pid vsan 1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show rscn src-table</b>	ステート変更登録テーブルを表示します。
<b>show rscn statistics</b>	RSCN 統計情報を表示します。

# rscn abort

仮想 SAN (VSAN) の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を取り消すには、**rscn abort** コマンドを使用します。取り消しを戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rscn abort vsan vsan-id**

**no rscn abort vsan vsan-id**

構文の説明	<b>vsan vsan-id</b>	RSCN 設定を取り消す VSAN を指定します。VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、VSAN 1 の RSCN 設定を取り消す例を示します。 <pre>switch(config)# rscn abort vsan 1</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>rscn commit</b>	指定された VSAN の保留中の RSCN 設定をコミットします。
	<b>rscn distribute</b>	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
	<b>rscn event-tov</b>	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	<b>clear rscn session vsan</b>	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	<b>show rscn</b>	RSCN 設定情報を表示します。

# rscn commit

保留中の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を適用するには、**rscn commit** コマンドを使用します。保留中の RSCN 設定を廃棄するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rscn commit vsan vsan-id**

**no rscn commit vsan vsan-id**

構文の説明	<b>vsan vsan-id</b>	RSCN 設定をコミットする VSAN を指定します。VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	アクティブ データベースに加えられた変更をコミットする場合、ファブリック内のすべてのスイッチに設定がコミットされます。コミットが正常に行われると、設定の変更がファブリック全体に適用され、ロックが解除されます。
------------	--

例	次に、VSAN 1 の RSCN 設定をコミットする例を示します。
---	-----------------------------------

```
switch(config)# rscn commit vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>rscn abort</b>	指定された VSAN の保留中の RSCN 設定を取り消します。
	<b>rscn distribute</b>	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
	<b>rscn event-tov</b>	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	<b>clear rscn session</b>	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	<b>show rscn</b>	RSCN 設定情報を表示します。

# rscn distribute

Registered State Change Notification (RSCN) 設定の配信をイネーブルにするには、**rscn distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rscn distribute**

**no rscn distribute**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

RSCN タイマー配信はディセーブルです。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

RSCN タイマー設定は、仮想 SAN (VSAN) 内のすべてのスイッチで同一にする必要があります。Cisco Fabric Service (CFS) は、RSCN タイマー設定をファブリック内のすべてのスイッチに自動的に配信します。RSCN タイマー設定だけが配布されます。

## 例

次に、RSCN 設定の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# rscn distribute
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rscn abort</b>	指定された VSAN の保留中の RSCN 設定を取り消します。
<b>rscn commit</b>	保留中の RSCN 設定を適用します。
<b>rscn event-tov</b>	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
<b>clear rscn session</b>	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
<b>show rscn</b>	RSCN 設定情報を表示します。

# rscn event-tov

指定した仮想 SAN (VSAN) の Registered State Change Notification (RSCN) のイベント タイムアウト値を設定するには、**rscn event-tov** コマンドを使用します。イベント タイムアウト値を取り消し、デフォルトの値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rscn event-tov timeout vsan vsan-id**

**no rscn event-tov timeout vsan vsan-id**

## 構文の説明

<b>timeout</b>	イベント タイムアウト値をミリ秒単位で指定します。有効な範囲は 0 ~ 2000 です。
<b>vsan vsan-id</b>	RSCN イベント タイマーを使用する VSAN を指定します。VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。

## コマンド デフォルト

ファイバ チャネル VSAN のデフォルトのタイムアウト値は 2000 ミリ秒です。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

タイムアウト値を変更する前に、**rscn distribute** コマンドを使用して RSCN 設定の配信をイネーブルにする必要があります。

RSCN タイマーは、初期化およびスイッチオーバーの実行時に Cisco Fabric Service (CFS) に登録されます。

## 例

次に、VSAN 1 の RSCN イベント タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn event-tov 20 vsan 1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>rscn abort</b>	指定された VSAN の保留中の RSCN 設定を取り消します。
<b>rscn commit</b>	保留中の RSCN 設定を適用します。
<b>rscn distribute</b>	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
<b>clear rscn session</b>	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
<b>show rscn</b>	RSCN 設定情報を表示します。